

専門研修プログラム名	岡山大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	岡山大学病院	
プログラム統括責任者	高木 学	

専門研修プログラムの概要	当プログラムで連携する病院群は都市部から中山間地域に広汎に及ぶが、各病院間とは従前より密接な顔の見える連携関係にあることから、研修における連携も容易である。経験できる領域の特色は下記の通りである。1. 大規模総合病院でのリエゾン・緩和ケアと合併症医療 2. スーパー救急病棟を併せ持つ精神科救急病院での救急診療 3. 認知症疾患医療センターや認知症専門病院での診療とケア 4. 児童思春期専門施設での診療 5. 依存症専門病棟を持つ病院での診療 6. 医療観察法病棟での司法精神医学の経験 7. 精神保健行政機関などでのアウトリーチの経験 8. 中山間部を含む多様なエリアでの地域包括ケア	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格も取得することを目標とする。基幹病院を中心に、臨床研究を行える病院が多数あり、将来、日本や世界の精神医学研究をリードする人材育成も目指していく。とくに岡山大学病院は臨床研究中核病院や橋渡し研究加速ネットワーク中核施設でもあり、高次元の研究に触れる機会も持つことも可能である。一方、育児や介護など医師としての研修と家事の両立を支援するシステム（キャリア支援枠）が、岡山大学病院では充実しており、すでに利用している医師も多い。これを利用して、子育て中の専攻医などを支援していくことが可能である。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	患者や家族との面接、診断と治療計画の立案、薬物療法、精神療法、検査、精神科救急、リエゾンコンサルテーション精神医学、心理社会的療法など
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	症例カンファレンスや抄読会などに積極的に参加し、討論に参加する。
	学問的姿勢	臨床現場から学び、技能と態度を修得する。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	患者に対して、人権を守る適切な倫理的、法的対応ができる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	3年間で必要な研修が終えられるように計画する。
	研修施設群と研修プログラム	密に連携をとりながらすすめる。
	地域医療について	地域医療に配慮し、都市圏に偏在することなく、地域医療を支えている施設も研修連携施設に含める。
専門研修の評価	研修修了時、専攻医は研修目標の達成度を評価し、その後研修指導医は専攻医を評価し、専攻医にフィードバックする。その後に研修指導責任者に報告する。	

修了判定	プログラム管理委員会の審議などを経て、最終的な評価は研修指導責任者や研修プログラム統括責任者が行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門的知識、専門的技能、医師としての備えるべき態度を習得しているかどうか、医師としての適性があるかどうかなどについて評価する。
	専攻医の就業環境	適正に行う。
	専門研修プログラムの改善	適正に行う。
	専攻医の採用と修了	専攻医と情報共有を行う。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医と情報共有を行う。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	適正に行う。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	高木学(教授)、寺田整司(准教授)、松本洋輔(講師)、岡久祐子(講師)、酒本真次(講師)、藤原雅樹(助教)、千田真友子(助教)、竹之下慎太郎(助教)、植田真司(助教)、すべて岡山大学病院所属	
Subspecialty領域との連続性	連続性を担保する必要がある。	